

## 「2016年 第39回座間味ヨットレース参加報告」

今年の博多ヨットクラブのテーマは『Cross Over』。クラブの垣根、キャリアの垣根、年齢の垣根を越えて親睦を重ねる。このテーマを胸に初めて座間味ヨットレースに参加した。

きっかけは、沖縄大好き人間の私はちょくちょく沖縄を訪問しており、ひょんなことから宜野湾港マリーナの能登総支配人と知り合うことができた。話の中で、7月の座間味レースに博多ヨットクラブの皆さん参加されませんか。乗艇するヨットは地元のヨットを紹介するので、体ひとつで気軽に来てくださいとの誘いを受けたからです。



〔宜野湾港マリーナ〕



〔宜野湾港マリーナ〕

実は沖縄にはヨットクラブが無く、今回のレースは、マリンレジャーのメッカである座間味村の観光地としての島おこし、誘客が趣旨。またジュニアヨットレース（OP級）の競技人口拡大等も目的としている。

博多ヨットクラブからの参加者は、大場さん（ARK）、高橋・槻木さん（いそしぎ）、そして私山田（JORDAN）の4名。全て沖縄のオーナーの船に同乗してのレース。

私は往年の名艇Blue Water25の“LAPIS LAZULI”、大場さんはFIRST40.7の“TEAM FOXY LADY”高橋・槻木さんはFIRST28の“らるご”にゲスト乗艇した。



〔LAPIS LAZULI〕



〔FOXY LADY〕



〔らるご〕

どこまでも『碧い海』、誰もが知る沖縄の海の美しさ。その美しい海に抱かれてのレース。初めての船に乗るプレッシャーとストレス。風が南国の湿気を含んで重く感じる。島周りのレースのため、潮流と風の読みが大変難しい。しかし、レースでありながら、その海のあまりにも美しさに「ひょっとして今、天国に上ってしまったのでは・・・」との錯覚を覚えた。



私が乗せて頂いたヨットのオーナーは島袋 亮道氏（琉球大学特命准教授）熱い心を持った少年の様な目をした沖縄人。「俺ってこんな風にいつも素晴らしい人に出会うきっかけをもらえるな」。これも全てヨットのおかげと、感謝。



[右が島袋氏]



[艇長会議]



[座間味周辺図]

今回の参加は、モノハル艇41艇、マルチハル艇4艇の計45艇。“TEAM FOXY LADY”はクラスⅠ、“LAPIS LAZULI”、“らるご”はクラスⅡでの参加です。

レース当日は快晴。クラスⅡが08:30、クラスⅠが09:00のスタートでタイムリミットは16:00。全艇きれいなスタートで、一路フィニッシュ地の座間味を目指す。



[スタート風景]



レースと同じくらいに、それ以上に盛り上がったのが座間味での歓迎パーティ。島人総勢で大歓迎していただいた。座間味村の村長は、宮里 哲氏。まだ40代と思われる情熱的な方。大学は福岡で過ごした『博多LOVER』。







[フィニッシュ地の座間味島]

ああこの原稿を書いているとまた、沖縄に行きたくなかった！

さあ福岡のヨット仲間よ！ジュニアたちよ！来年は沖縄で燃えようぜ！！

宜野湾港マリーナの能登さん、田端さん いろいろとご手配ありがとうございました。

そして島人(シマンチュウ)のセーラーの皆さんありがとう。

来年も第40回座間味レースでまたお会いしましょう。

博多ヨットクラブ会長 山田 義二